（第三種郵便物認可）　第1430号第1430号　（第三種郵便物認可）

歴史の転換点の年を迎え、何をすべきか

鶏卵産業の課題と今後を考える

価値ある設備を提案、提供

東洋システム㈱
代表取締役社長　安田　勝彦

《価値あるレイヤー設備》

①ランニングコスト（養鶏電気代、破卵率、飼料要求率、人件費、耐久性）が他農場より低く②鶏糞処理がスムースで③アフターサービスが安心…これが価値あるレイヤー設備だと考えます。

①について

二十一世紀の養鶏は一段と国際化が進み、低卵価＝適正卵価の中で生き残れる農場作りを目指す必要があります。羽当たり十円でも安い設備を入れたと自慢し、羽数を増やす時代は終わりました。

選定した設備で低いランニングコストを定着させていけば、卵消費は減少しても底堅いものがあり、養鶏業界は二十一世紀にあっても、安定した夢のある産業であり続けると思います。

レイヤー設備の主力となりつつある養鶏ベルトケージの例を取っていえば、農場間で乾電気代の差があることはザラであり、破卵率の差が二～三％あることはザラであり、要求率の差が一～二％あることもザラであります。

システムケージが更新期に入ってくるこれからは、耐久性五～六年の差が羽当たり数百円の収益差になることも肌身に感じられるようになると思います。

前出の鶏乾電気代、破卵率、要求率の差は十五年間で千五百円の差となり、これに耐久性の差を加えると、設備の導入投資の差とどちらが優れた経営判断かは自明であります。

かけるものはかけて、その設備の性能をフルに引き出し、じっくり取り組む…これが二十一世紀の養鶏だと考えます。

②について

スムースな鶏糞処理は、鶏舎内鶏糞予備乾燥、すなわち羽当たり十キロカロリーの発熱量（二万羽鶏舎で二十万キロカロリー）を有効活用することが基礎になると思います。

ウィスク、ドライチャンバー、あるいはトリの生活スペースを考えた効率的なエアパイプなど、蓄積した技術、経験のカンバン方式を個品ラッピングなど、効率的なアフター体制の充実に向け、引き続き努力を続けます。

③について

レイヤー設備は家庭用のボイラーなどと違い、航空機と同じようにユーザー側でのメンテナンス（主としてホコリの除去、給油）が不可欠で、より良いアフターサービスにはユーザーと当社の努力、この二本柱が重要です。農場設備の複雑なことをやっても実用性がありません。

すでに採卵農場に普及している成績管理のパソコン処理コンピュータとの住み分け、システム化を考えた毎日、毎日の飼育管理をより的確に行なえるようにしたシンプルなコンピュータシステムです。給餌量、給水量、温度など、基本情報の把握、分析がどこへ行ってもロケーションが明確に把握できる、ガーナビ付き養鶏ともいえます。

価値ある設備を、さらにパワーアップさせる力強い味方です。

価値ある設備でオートメーション精密養鶏を軌道に乗せ、クリーンでヘルシーな新鮮卵の生産に快適に取り組む…これが二十一世紀の養鶏の進むべき方向だと確信します。

当社は価値ある設備のさらなる改善、開発とコストダウンに全力を挙げます。

（岐阜県各務原市金属団地九七一四）

鶏鳴新聞
2000.1.5